

平成29年度北海道大学大学院

文学研究科修士課程入学試験問題（前期）

試験区分	<ul style="list-style-type: none">■ 一般入試■ 外国人留学生特別入試
試験科目名	<ul style="list-style-type: none">■ 専門試験（ 日本史学 ）□ 共通外国語（ ）
出題の意図	<p>本研究科修士課程において日本史学を専修する際に必要である、日本史学に関する知識ならびに史料読解力を問う出題とした。「問題Ⅰ」は、日本史を貫く重要なテーマに関する知識と見解とを論述形式で解答させるもので、受験者の問題関心及び論理構成力を見る設問である。「問題Ⅱ」は、前近代もしくは近代に関する問題のうちいずれかを選択して解答させるもので、受験者の専攻する時代の史料読解能力を見る設問である。</p>

平成29年度
北海道大学大学院文学研究科修士課程入学試験問題（前期）
（専門試験） 日本史学 全6枚のうち1枚目

この試験では、試験問題6枚、解答用紙2枚を配付する。

【問題の構成】

- ①全2問。問題Ⅰと問題Ⅱとから成る。
- ②問題Ⅰは共通問題である。受験者は、全員、この問題に答えなさい。
- ③問題Ⅱは選択問題であり、**A**と**B**とから構成される。受験者は、**A**または**B**のどちらかを選択し、問題に答えなさい。

【解答用紙の使用方法】

解答は、問題Ⅰと問題Ⅱとについて、それぞれ別々の解答用紙に記入すること。

.....

問題Ⅰ

日本の歴史における政治と文化のかかわりについて、具体的な例を挙げながら論じなさい。

問題Ⅱ **A** 次の【史料一】・【史料二】を読んで、下記の設問（問一～八）に答えなさい。なお、出題の都合上、一部、史料の表記を改めたところがある。

【史料一】 『本朝文粹』 卷十二 牒

大宰府答新羅返牒

却歸使人等事

〔前欠カ〕 伏思、當國之仰貴國也、禮敦父事、情比孩提。唯甘扶轂執鞭、豈憚航深棧險。而自質子逃遁、隣言矯誣。一千年之盟約斯渝、三百歲之生疎到此。春秋不云乎、**①親仁善隣、國之寶也。**魯論語曰、不念舊惡。是宜恩深含垢、化致慕羶。今差專介、冀藏卑儀者。如牒、**②都統甄公**、內撥國亂、外守主盟。聞彼勳賢、孰不欽賞。然任土之琛、藩王所貢、朝天之禮、陪臣何專。代大匠而採刀、慕庖人而越俎。雖誠切攀龍、猶嫌忘相鼠。縱宰府忍達金闕之前、而憲臺恐安玉條之下。仍**③表函・方物**、併從却廻。宜稽之典章、莫處疎隔。**④過而不改奈其餘何。**但輝函〔宮卜モ〕等、遠疲花浪、漸移葭灰。量給官糧、聊資歸路。今以狀牒、牒到准狀。故牒。

延喜 年 月 日

問一、この史料は、「新羅」から送られてきた外交文書に対して、日本の大宰府が出した返書を著録したものである。

(a) 「新羅」からの外交文書は、本史料中において何と呼ばれているか。

(b) 「新羅」からの外交文書の引用は、文中のどこまでか。最後の漢字四文字を記しなさい。

問二、傍線部①の文言は、室町時代に著された著名な外交文書集の題名にも活かされている。その書物の正式な名称、および著者名を答えなさい。

問三、傍線部②「都統甄公」は、のちに百濟王（後百濟王）となる甄萱のことである。甄萱が中国の王朝から百濟王に冊封されるのは九二五年のことであり、この時点で朝鮮半島は政治的に不安定な状態にあった。こうした状況下、甄萱は「新羅」の高官として外交文書を日本に発したわけである。

(a) 甄萱の意図するところにつき、傍線部③の表現に注意しながら、説明しなさい。

(b) これに対して、日本はいかなる対応を取ったのか、史料から読み取って説明しなさい。

問四、傍線部④を、旧仮名遣いを用いて読み下し文にしなさい。

【史料二】東寺諸経板木式目条々 〔※上方の丸数字は、条数をあらわす。〕

*問題本文の画像史料は、著作権法上の理由からこのホームページに掲載することができませんので、左記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

《出典》『東寺百合文書』乙函一七四号（四）、享徳元年（一四五二）十二月日（京都府立総合資料館蔵）。
<http://hyakugo.kyoto.jp/contents/detail.php?id=15851>（二〇一六年八月二〇日最終閲覧）。

問五、第①条では、光明講（光明真言講）方奉行人が諸経の板木をいかに管理するかについて定

めている。

(a) 第1条の大意・要点は何か、答えなさい。

(b) なぜそのような板木の管理体制を敷いていたのか、考えられるところを記しなさい。

問六、第②条冒頭に見える「検知」とは、いかなる業務内容を指すと考えられるか、説明しなさい。

問七、第③条につき、

(a) 「板料」とはいかなるもので、何のために徴収されたと考えられるか。とくに第⑤条を参照しながら、説明しなさい。

(b) どの経典につきいくらの板料がかかる規定であったのか、説明しなさい。またその違いが生じた理由につき、考えられるところを述べなさい。

(c) 金剛頂経とは、大日経とともに、真言密教の教理・実践にかかる根本経典である。中国人僧侶の誰から、日本人渡海僧の誰へ伝授されたのか、僧名をそれぞれ答えなさい。

(d) 仁王経とともに、古代以来、鎮護国家のための護国三部経とされてきた他の大乘経典二件とは何であったか、答えなさい。

問八、第④条を、旧仮名遣いを用いて読み下し文にしなさい。

問題Ⅱ **B** 史料一と史料二を読んで、問一〜十に答えなさい。なお、史料は出題のために改めたところがある。

史料一

* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、左記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

（竹越与三郎『新日本史』（下）、岩波書店、二〇〇五年、一七六一―七七頁。）

問一、傍線部①の「版籍」とは何か、説明しなさい。

問二、傍線部②の主義を何というか、答えなさい。

問三、傍線部③の改革を行った外交上の理由を答えなさい。

問四、傍線部④の結果生ずる経済現象は何か、答えなさい。

問五、空欄 **ア** にあてはまる語句を答えなさい。

問六、傍線部⑤の措置は、政府にとって短期では利益となり、長期では不利益となった。利益・不利益の内容を明らかにしたうえで、なぜそのようなことがおこるのか、説明しなさい。

史料二

*問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、左記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

（宮澤暁一『戦後政治の証言』読売新聞社、一九九二年、二二―二五頁。）

問七、傍線部⑥の概要を説明しなさい。

問八、傍線部⑦の内容を説明しなさい。

問九、空欄 ・ ・ にあてはまる語を答えなさい。

問十、傍線部⑧の反感は、ニューディールと空欄 の間に対立をもたらしたが、その際我国の大蔵省はどのような態度を採ったか、説明しなさい。